

株主メモ	
事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月
基準日	1月31日
剰余金の配当の基準日	1月31日、7月31日(中間配当を行う場合)
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 同事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL 0120-094-777(通話料無料)
公告掲載方法	電子公告によりホームページ(https://www.artner.co.jp/)に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『アルトナーメール配信』サービス

Eメールアドレスをご登録いただいた方に「投資家情報」「サステナビリティ」の更新、決算、ニュースリリース、その他、重要事項の最新情報を、Eメールにて配信いたします(無料)。

下記URLまたはQRコードからWebサイトにアクセスしてご登録ください。

<https://www.artner.co.jp/ir/other/mail/>



↑QRコードからアクセス

当社のIR活動が表彰を受けました！

日興アイ・アール株式会社
**2024年度全上場企業
ホームページ充実度ランキング**

●総合ランキング「最優秀サイト」
●業種別ランキング「最優秀サイト」

大和インバスター・リレーションズ株式会社
**大和インターネット
IR表彰 2024**

●「優秀賞」
●サステナビリティ部門「優秀賞」

株式会社ブロードバンドセキュリティ
**Gomez IRサイト
ランキング2024**

●総合ランキング「優秀企業」
「銀賞」(20位)
●業種別ランキング
(サービス業1位)

**Gomez ESG サイト
ランキング2025**

●総合ランキング「優秀企業」

株式会社アルトナー

東京本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-5-5 住友不動産新横浜ビル5F

大阪本社 〒530-0005 大阪市北区中之島 3-2-18 住友中之島ビル2F

Webコンテンツのご紹介

[https:// www.artner.co.jp/](https://www.artner.co.jp/)

アルトナー 検索

2025 Blog

News

▲Home

投資家情報 (Home▶投資家情報)

エンジニアインタビュー等
動画ならではの当社情報を配信中！

▲<https://www.youtube.com/> より

アルトナー公式 検索

UD FONT

64|2QIR

株式会社アルトナー

証券コード：2163

第64期 IRレポート【第2四半期(中間期)】

2025年2月1日～2025年7月31日

特集：エンジニアインタビュー
入社から6年の歩み

Make Value

Engineer Support Company

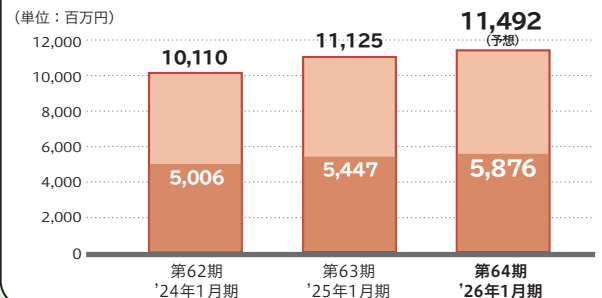


※本文及び図表中の金額は、百万円未満を切り捨てているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。
また、構成比(%)は、小数点第二位で四捨五入しているため、内訳の比率の合計が100.0%にならない場合があります。

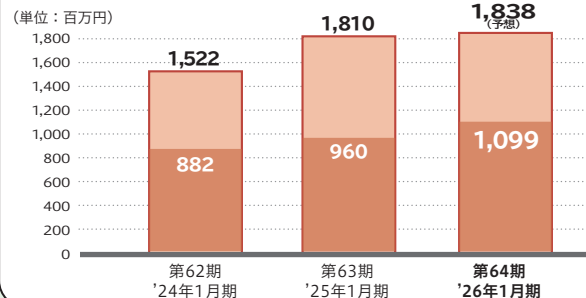
第64期 2026年1月期 第2四半期(中間期) 業績ハイライト

通期 第2四半期(中間期)

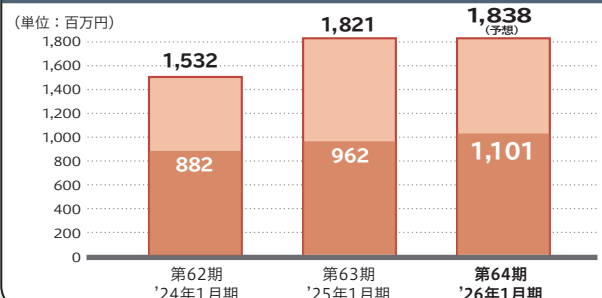
売上高 5,876百万円 7.9%増



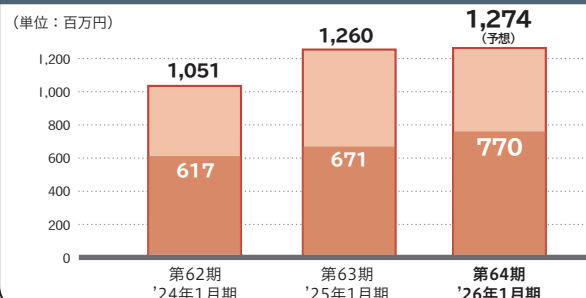
営業利益 1,099百万円 14.5%増



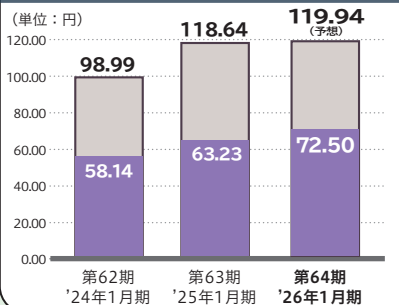
経常利益 1,101百万円 14.5%増



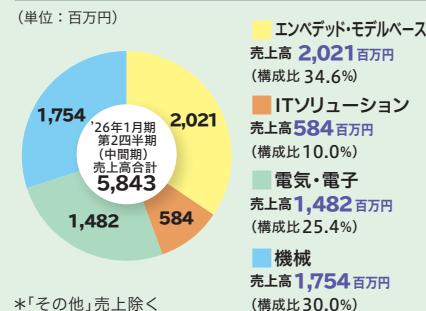
中間(当期)純利益 770百万円 14.7%増



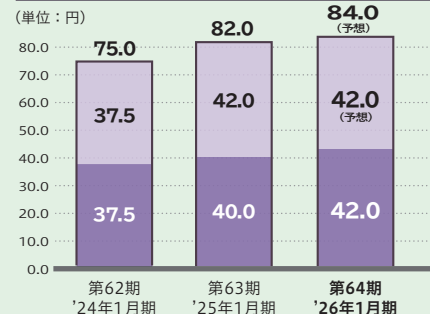
1株当たり中間(当期)純利益(EPS)



技術領域別売上高*



配当金



経営指標に関する詳細は(Home ▶投資家情報 ▶業績・財務情報 ▶主な経営指標)を参照

Message from Our President and CEO

開発の上流工程を担う当社のビジネスモデルにより、米国の関税措置による直接的な影響は見受けられず第2四半期(中間期)が増収・増益。12期連続の増収・増益を目指します。

第64期 2026年1月期 第2四半期(中間期)の業績、第64期 2026年1月期の業績予想、中期経営計画(2026年1月期~2030年1月期)の進捗状況についてご説明させていただきます。

代表取締役社長

関口 相三

第64期 2026年1月期 第2四半期(中間期)の市場環境

開発の上流工程を担う当社の特徴が発揮され、開発テーマが多様化する自動車関連メーカー、半導体製造装置メーカーからの技術者要請が旺盛。

米国の関税措置による産業界全般への影響が懸念される中、開発の上流工程において技術者の配属比率が高い当社の特徴が十分に発揮され、足元の景気に左右されず、引き続き、自動車関連メーカー並びに半導体製造装置メーカーからの技術者要請が旺盛でした。特に自動車業界は大きな変革期にあり、開発テーマが多様化しております。

第64期 2026年1月期 第2四半期(中間期)の業績概要

技術者派遣から請負・受託への計画的シフトが順調に進捗。稼働率が高水準で推移し稼働人員が増加。新卒技術者の初配属単価、全体の技術者単価も上昇。

第2四半期(中間期)の大きな特徴は、請負・受託事業の売上高構成比率が12.3%(前年同期10.9%)、前年同期比21.4%増となったことです。技術者派遣で実績を積み、プロジェクトリーダーとして、請負・受託にシフトするビジネスモデルが堅調に進捗しています。加えて、ソフトウェアを中心に技術者の稼働率が高水準で推移し、新卒技術者の配属が計画より前倒しで推移したことにより、稼働人員が増加しました。また、初配属単価が昨年を上回る実績で進捗し、技術者単価全体が上昇したことにより、営業利益率が18.7%に上昇いたしました。

これらを踏まえ、売上高は5,876百万円(前年同期比7.9%増)、営業利益は1,099百万円(前年同期比14.5%増)、経常利益は1,101百万円(前年同期比14.5%増)、四半期純利益は770百万円(前年同期比14.7%増)となりました。



第64期 2026年1月期の業績予想

米国の関税措置により、多少の減速感は見込まれるものの、自動車関連メーカーの開発は概ね変化がないと予想。引き続き、当社への技術者要請の継続を期待。

米国の関税措置に関して、お客様への影響が出てくる場合、下期以降と見込まれます。しかしながら、直ちに開発予算の縮小には結びつかないと予想しております。特に自動車関連メーカーは開発テーマが多く、仮にいずれかの開発テーマが減速した場合も、その他のテーマに開発予算が振り分けられ、全体的な予算は大きくは縮小しないと見込んでおります。これらを踏まえ、第64期の通期業績の見通しは、売上高は11,492百万円、営業利益は1,838百万円、経常利益は1,838百万円、当期純利益は1,274百万円の増収・増益を見込んでおります。

中期経営計画(2026年1月期～2030年1月期)の進捗状況

技術者の毎年平均10%増にて2,100人へ。ハイエンド領域を担う技術者を育成する仕組みを構築。パートナー企業との業務提携も含めて、総合力によって人財供給力を高めていく。

当社では、中期経営計画において、技術者数2,100人の目標を設定し、過熱する採用市場の中で、新卒採用、既卒・第二新卒を含むキャリア採用の両面から採用活動の一層の強化を図っております。新卒採用は2026年4月入社180人、キャリア採用は2026年1月期に100人の採用目標を掲げ、技術者全体で毎年平均10%増を目指しております。

技術者派遣事業において、高付加価値の技術者集団を確立するため、ハイエンド領域への配属比率を50%に高める目標を設定しております。この領域に配属可能な技術者の採用・教育により質の向上に尽力してまいります。また、ハイエンド領域を担う可能性のある技術者を請負・受託のプロジェクトに配属し、2～3年かけて、この領域を担うレベルまで育成し、その後、お客様のプロジェクトに配属する仕組みの構築を目指しております。技術者が配属先で築き上げた評価・信頼が、お客様からの次の人財要請につながっていきます。

請負・受託事業において、人員比率を30%まで高める目標を設定し、多種多様な人財活用を推進しております。アルトナー社員と外部人財を1対1まで高めるため、協力会社の開拓を進めており、この度、株式会社富士テクノホールディングス様との双方の人財活用に関わるパートナーシップを盛り込んだ業務提携契約を締結いたしました。今後の少子高齢化、労働人口減少、技術者不足に対応していくため、このような総合力によって人財供給力を高めてまいります。

株主・投資家の皆様へ

12期連続の増収・増益を目指し、配当性向50%を基本方針として、前年割れのない安定的な配当額を還元。

株主・投資家の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社では、株主・投資家の皆様に安定的な配当を実施することを経営の重要課題に据え、配当性向50%をベースに、業績を確実に上げて当期純利益を増額していくことにより、前年割れのない右肩上がりの配当額を還元していくことを基本としております。

おかげさまで第63期まで11期連続で増収・増益を達成してまいりました。12期連続の達成に向けて、第64期の業績も堅調に推移しております。

第64期の中間配当は42.00円となりました。期末配当は42.00円を予定し、年間配当は84.00円を予定しております。今後とも、皆様の継続的なご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



市場のホットなテーマのアルトナーへの影響

Q 米国の関税15%がもたらす自動車業界への影響について

A リーマンショックのような構造不況とは異なり、米国の関税措置は、自動車関連メーカーもある程度の影響は織り込み済みのことと思われます。当社の足元では、技術者の契約解除のような状況は見受けられません。自動車業界においては、関税対応という短期的なテーマよりも、100年に1度の技術革新という中長期的なテーマに向けて開発が進んでおり、当社への技術者要請は継続されると捉えております。

Q 大手自動車メーカーの電気自動車(EV)の開発減速の影響について

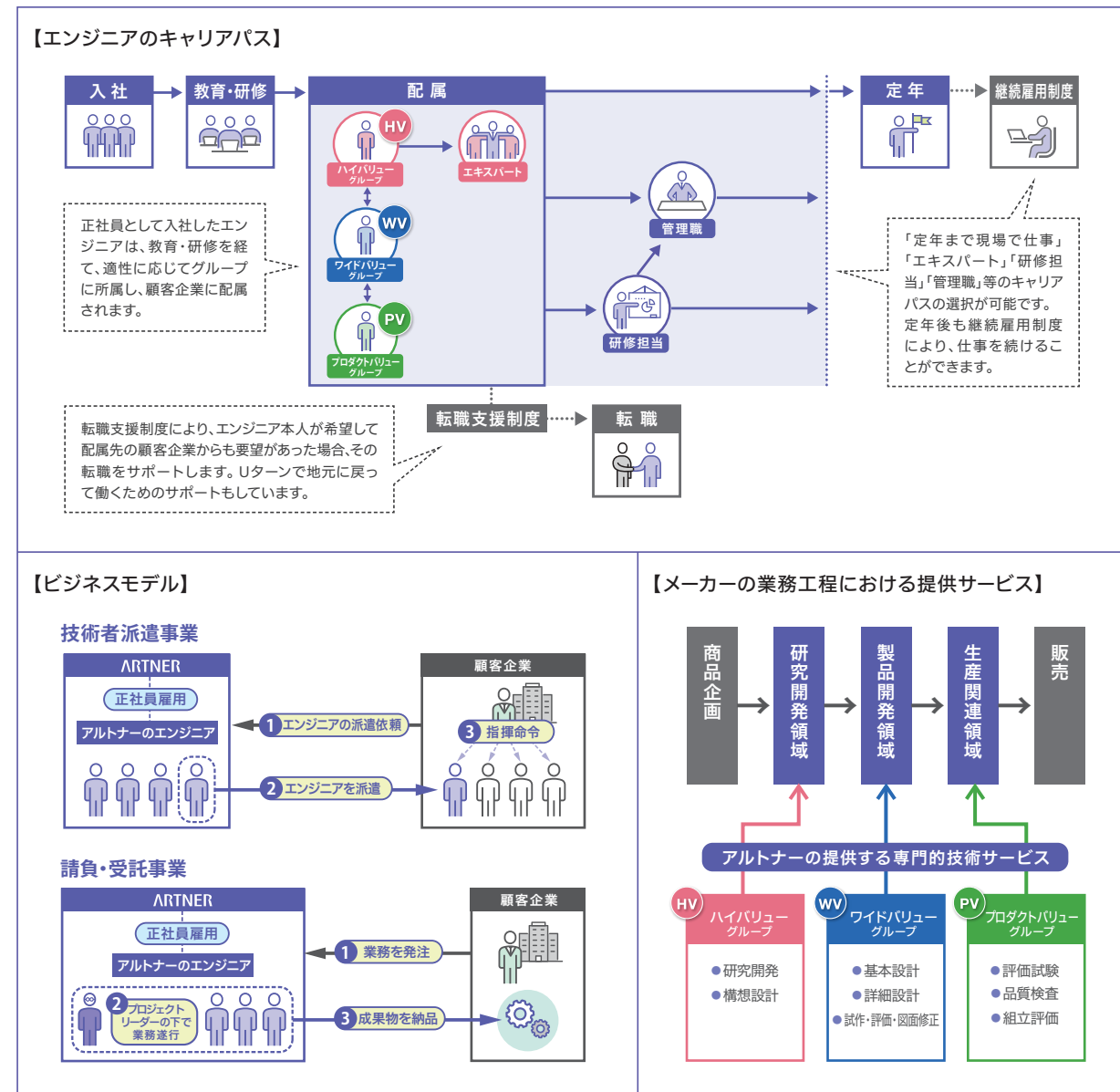
A 世界的にEV開発が減速傾向にありますが、自動車業界の開発テーマはEV以外にも、「カーボンニュートラル」の実現に向けて、ハイブリッド車(HV)、燃料電池自動車(FCV)、バッテリー、自動運転といった多彩なテーマがあります。状況に応じて、これまでEVに振り分けられていた予算は再配分されて他のテーマに注力されていくと思われます。開発の上流工程に多く関わる当社において、現時点では、大きな影響は見受けられません。

Q 生成AI半導体の需要増大の影響について

A 生成AIやデータセンターでの使用拡大などにより、半導体の需要が拡大しています。それに伴い、半導体製造装置の開発も進み、当社の主要顧客である半導体製造装置メーカー様からの技術者要請も引き続き旺盛な状況です。また、電動化、自動運転、コネクテッド技術の進化に伴い自動車に使われる半導体も高度化し、その開発に必要な人財がより求められますので、当社の事業にプラスの影響を与えて考えております。

キャリアパス & ビジネスモデル

技術開発の強力なパートナーとして、多様なニーズにお応えいたします。



アルトナーニュース

イベントやサステナビリティ活動等の中からピックアップしたニュースをお伝えいたします。

アルトナー 公式Instagramを開設

当社は、この度、より多くの皆様にアルトナーの魅力を知っていただくため、公式Instagramアカウントを開設いたしました。本アカウントでは、当社の事業内容や働く社員の姿、社内イベントの様子、採用情報などを中心に、様々なコンテンツを発信してまいります。

新卒・キャリア入社をご検討中の皆様にも、職場の雰囲気や価値観をより身近に感じていただけるコンテンツをお届けする予定です。

また、社員の日常や取り組みを通じて、アルトナーならではの風土やチームワークの強さを感じていただけます。ぜひとも、フォロー・いいねをよろしくお願いいたします。



● 公式Instagramアカウント
【アカウント名】 @artner_eng
【URL】 https://www.instagram.com/artner_eng/



株式会社富士テクノホールディングスとの業務提携契約締結に関するお知らせ

当社は、2025年6月20日開催の取締役会において、株式会社富士テクノホールディングスとの、双方の人財活用に関わるパートナーシップを盛り込んだ業務提携契約を締結することを決議いたしました。

■背景と目的

少子高齢化、DX等の進展に伴い、エンジニアの不足が益々進んでおります。得意とする技術領域が近い当社と富士テクノホールディングスグループ各社とがパートナーシップを組むことにより、それぞれの強みを活かした人財面の協業を行うことで、構造的な人財不足の影響を抑制するとともに、効率的かつ高付加価値な人財サービスを提供してまいります。

■提携内容

主に両社のエンジニアの相互交流を促進し、高い技術力を有する優秀なエンジニアの育成を、より一層加速してまいります。本提携により、互いの強みを最大限に活かし、持続的な事業成長と中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。



Home ▶ ニュース ▶ ニュースリリース

有限会社クリップソフトの株式の取得（子会社化）に関するお知らせ

当社は、2025年9月8日開催の取締役会において、有限会社クリップソフトの全株式を取得し、子会社化することを決議いたしました。

■株式取得の理由

当社は、2025年3月14日に公表した中期経営計画（'26年1月期～'30年1月期）において、『持続的成長および次世代成長のための基盤を構築する』をテーマに、業界No.1高付加価値の技術者集団の組織化・総合技術サービス会社への進化を基本方針とし、「新たな事業・収益機会の模索」を基本施策の一つとして、M&A・アライアンスによる総合技術サービス会社への進化を掲げ、事業を推進しております。クリップソフトは、静岡県浜松市に本社を置き、これまで積み上げてきた開発経験と高い技術力を有し、車載メーターなどの組込みソフトウェアの開発及び人材派遣サービスを展開しております。今回の子会社化により今後も成長が見込まれるIT業界（システム受託開発、組込みソフトを含む）での当社サービスの拡大を図り、更なる企業価値の向上に努めてまいります。



Home ▶ ニュース ▶ ニュースリリース

特集

エンジニアインタビュー 入社から6年の歩み

2019年の新卒入社時、Webサイトで「新卒エンジニアブログ」を担当した2人のエンジニア。
当時の自分たちの言葉を振り返りながら、それぞれの6年の歩みと、今実感している成長、
これから目指す将来について語ってもらいました。

周囲に支えられた6年の成長

ハイパリュウグループ
所属分野 ソフトウェア モデルベース
2019年 新卒入社



(2019年 新卒エンジニアブログの研修担当者との写真)

Q 入社当時を振り返っていかがですか？

新卒エンジニアブログの依頼を受けた時は「なぜ自分が…？」と驚きましたが、「後輩のために」と気持ちを熱くして書いたのを覚えています。ブログに書いた「同期と共に研修を頑張った」という言葉どおり、同期の存在は大きく、配属先が近かった同期とは今もつながりがあり、かけがえのない存在になっています。配属前のカスタマイズ研修は、同期と協力して取り組めたことがいい思い出です。特に、初めての配属先の業務である自動車のセンサーの特徴について学んだことは、後の実務でも役立ちました。実際の現場では戸惑うこともありましたが、周囲の助けを借りながら壁を乗り越えてきました。当時の上司が設けてくれた勉強会とサポートのおかげでE資格にも合格でき、「1人で挑んでいたら絶対に乗り越えられ

なかった」と感じています。

Q 6年目の今、どう成長したと感じますか？

現在は、自動車の自動運転技術開発に携わっていて、走行データの取得から解析、ソフトウェア作成まで幅広く担当しています。実際に車に触れることで、「自分がどんなモノづくりに関わっているか」を肌で感じられることが大きな魅力です。どんな状況でも事前確認を徹底し、トラブルを未然に防ぐことを常に意識してきました。その努力が実を結び、再テストなどの工数削減につながった時は、周囲からの信頼も得られ、大きなやりがいを感じました。アルトナーの魅力は、評価と給与に直結するスキルや資格の明確な目標が示されている点です。今後は「この人に仕事を任せれば間違いない」と思われるような幅広い知識を持つエンジニアを目指したいと考えています。



(2025年 再インタビューの際の写真)

チャレンジでつかった自信と実力

ワイドバリュウグループ
所属分野 電気・電子
2019年 新卒入社



(2019年 新卒エンジニアブログの研修中の写真)

Q 入社当時を振り返っていかがですか？

新卒エンジニアブログを見返すと、会社への貢献意欲、一生懸命勉強したいという意欲あふれる言葉が綴られており、今振り返ると、ひたむきさを感じます。今でも根底にある仕事への前向きな思いや成長意欲は当時のままです。研修後、自動車のエンジンバルブを作る企業に配属されました。初めての配属先で、目上の方との接し方に慣れておらず、伝えたいことがうまく伝わらずに落ち込むこともありましたが、当時の営業担当者からの「最初は失敗するのが当たり前。そこから学ぶことが大事」という励ましの言葉に心が軽くなりました。この経験から、相手に配慮しながらも質問や相談を積極的に行うようになり、コミュニケーションを取ることで、仕事をスムーズに進めることの大切さを学びました。

Q 入社3年が経過した頃はどうか？

新たな配属先では電気・電子系の業務に従事することに

なりました。大学時代は機械系だったため、基礎から自主的に学習を開始しました。波形や信号を読み取ることに苦戦しましたが、業務に誠実に向き合っていれば、必ず道は開けるという信念を持ち続けました。入社3年後には地元大阪へのUターンを希望し、エリア限定制度を利用して異動を実現しました。また新しい業務に邁進する中、業務で学んだ知識を、設計開発業務に活かしてみたいと思い、社内公募制度へ応募し、ワイドバリュウグループへのキャリアアップを実現しました。

Q 6年目の今、どう成長したと感じますか？

現在は家庭用燃料電池の設計・開発に携わり、制御プログラムの動作検証や、不具合対応などを担当しています。エネルギー効率や環境負荷への配慮が求められる中、燃料電池技術の最前線に関われていることに誇りを持っています。アルトナーは、有給休暇も取得しやすく、メリハリのある働き方が可能です。こうした環境を活かして今後も電気系の知識を習得し、キャリアアップしたいと思います。目の前の業務に真摯に取り組み、着実にスキルを磨いていくことが、未来のキャリアを切り拓くと信じています。



(2025年 再インタビューの際の写真)

「ARTNER Magazine」

エンジニアやスタッフへのインタビューをWebサイト「ARTNER Magazine」に掲載しております。
ぜひご覧ください。Home ▶ARTNER Magazine



要約中間財務諸表

中間貸借対照表(要旨)		(単位：百万円)
科 目	第63期 前事業年度 2025年1月31日	第64期 当中間会計期間 2025年7月31日
資産の部		
流動資産	6,130	6,442
固定資産	556	620
有形固定資産	78	79
無形固定資産	20	89
投資その他の資産	457	451
資産合計	6,687	7,063
負債の部		
流動負債	1,262	1,316
固定負債	716	714
負債合計	1,979	2,030
純資産の部		
株主資本	4,707	5,031
資本金	238	238
資本剰余金	168	168
利益剰余金	4,301	4,625
自己株式	△0	△1
評価・換算差額等	0	0
その他有価証券評価差額金	0	0
純資産合計	4,708	5,032
負債純資産合計	6,687	7,063

ポイント① 中間貸借対照表

- ①総資産は、売掛金及び現預金の増加により、前事業年度末に比べ375百万円増加。
②負債は、未払消費税等の減少があったものの、預り金の増加により、前事業年度末に比べ51百万円増加。
③純資産は、利益剰余金の増加により、前事業年度末に比べ324百万円増加。

ポイント② 中間損益計算書

- ④技術者派遣事業にて、技術者数が増加し、稼働率が高水準で推移したことにより、稼働人員が前年同期を上回る。企業の賃上げ傾向、技術者不足による新卒技術者の初配属単価の上昇、業務レベル向上のための既存技術者の顧客企業ローテーションにより、技術者単価が前年同期を上回る。請負・受託事業にて、受注プロジェクトへの配属者数が増加し、顧客ニーズに応じて、技術者派遣から請負・受託へプロジェクト変更したことにより、売上高構成比が12.3%となる。これらの結果、売上高は前年同期比7.9%増の5,876百万円。
⑤利益面においては、採用関連投資費用、IT・DX投資費用等があったものの、売上高の伸長によりこれらの費用が吸収され、前年同期を上回る。これらの結果、営業利益は前年同期比14.5%増の1,099百万円、経常利益は前年同期比14.5%増の1,101百万円、中間純利益は前年同期比14.7%増の770百万円。

※本文及び図表中の金額は、百万円未満を切り捨てているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。
また、構成比(%)は、小数点第二位で四捨五入しているため、内訳の比率の合計が100.0%にならない場合があります。

中間損益計算書(要旨)		(単位：百万円)
科 目	第63期 前中間会計期間 2024年2月1日から 2024年7月31日まで	第64期 当中間会計期間 2025年2月1日から 2025年7月31日まで
売上高	5,447	5,876
売上原価	3,318	3,515
売上総利益	2,129	2,360
販売費及び一般管理費	1,168	1,260
営業利益	960	1,099
営業外収益	1	1
営業外費用	0	0
経常利益	962	1,101
特別利益	6	-
税引前中間純利益	968	1,100
法人税、住民税及び事業税	295	332
法人税等調整額	0	△3
中間純利益	671	770

中間キャッシュ・フロー計算書(要旨)		(単位：百万円)
科 目	第63期 前中間会計期間 2024年2月1日から 2024年7月31日まで	第64期 当中間会計期間 2025年2月1日から 2025年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	350	607
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46	△76
財務活動によるキャッシュ・フロー	△396	△444
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△92	86
現金及び現金同等物の期首残高	4,277	4,588
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,185	4,675

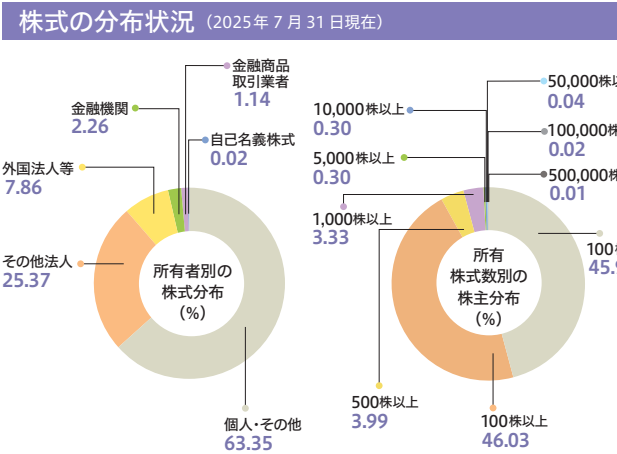
ポイント③ 中間キャッシュ・フロー計算書

- ④当中間会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ86百万円増加。
⑤営業活動CFは、法人税等の支払、売上債権の増加があったものの、税引前中間純利益があったことにより、607百万円のプラス。
⑥投資活動CFは、無形固定資産の取得による支出があったことにより、76百万円のマイナス。
⑦財務活動CFは、配当金の支払により、444百万円のマイナス。

会社・株式情報

会社概要 (2025年7月31日現在)			
名 称	株式会社アルトナー	研修拠点(LC)	東日本／西日本
設 立	1962年 9月18日(昭和37年 9月18日)	事業内容	1)ソフトウェア 2)電気・電子 3)機械 上記分野の基礎研究、設計開発、及び開発技術等の周辺業務
代 表 者	代表取締役社長 関口 相三	従業員数	1,500人
株 式	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:2163)	許可番号	労働者派遣事業(派27-020513) 有料職業紹介事業(27-ユ-020355)
資 本 金	2億3,828万4,320円		
本 社	東京／大阪		
事業拠点	横浜／大阪／宇都宮／名古屋		

役員一覧 (2025年7月24日現在)	
代表取締役社長	関口 相三
常 務 取 締 役	張替 朋則
取 締 役	奥坂 一也
取締役(常勤監査等委員)	野村 龍一郎
取締役(監査等委員)	寺村 泰彦
取締役(監査等委員)	森井 眞一郎



株式の状況 (2025年7月31日現在)	
発行可能株式総数	36,000,000 株
発行済株式数	10,627,920 株
流通株式数	75,841単位
株主数	24,200人

大株主の状況 (2025年7月31日現在)		
氏名または名称	所有株式数(株)	割合(%) ※
株式会社関口興業社	2,126,000	20.00
アルトナー従業員持株会	808,648	7.61
大阪中小企業投資育成株式会社	480,000	4.51
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	233,859	2.20
張替 朋則	140,840	1.32
THE BANK OF NEWYORK MELLON 140040 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	138,059	1.29
奥坂 一也	115,380	1.08
出雲 宏行	100,000	0.94
野村信託銀行株式会社(投信口)	75,000	0.70
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505044 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	75,000	0.70
計	4,292,786	40.40

※発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合